参考資料２

【瀬戸市シティプロモーション戦略の報告】

【POTLUCK BAR with 瀬戸】実施結果について

1. 事業の目的

これまで瀬戸市との接点がなかった人と瀬戸との新たな出会いを生み出し、首都圏の新たな視点や感性と瀬戸市のヒト・モノ・コトが混ざることで、これまでにない価値や可能性を生み出す「化学変化」を目的に開催。

2. 実施概要



イベント名：POTLUCK BAR with 瀬戸
日時：令和８年８月27日（木） 18:00～21:00
会場：POTLUCK YAESU（東京ミッドタウン八重洲 5F）
参加者：50名（定員 50名　申込数 55名）
対象：首都圏在住者
主な内容：トークセッション、瀬戸焼×日本酒体験×瀬戸グルメ、
　　参加者交流
運営協力：株式会社 JR 東海、株式会社 JR 東海エージェンシー

3. 実施内容

（1） 第１部トークセッション

【登壇者】

株式会社 PoliPoli　代表取締役 CEO　伊藤 和真 氏
株式会社東京大学エッジキャピタルパートナーズ　代表取締役社長 CEO　郷治 友孝 氏
瀬戸市出身で、現在は東京を拠点に活躍する経営者をゲストに迎え、瀬戸を外から見ることで改めて感じる地域の可能性や文化の価値について語っていただいた。

【登壇者】

人類学実践者　水上 優 氏
人類学の視点から、地域の歴史や人々の営みを紐解くアプローチについても紹介し、参加者が普段とは異なる視点から瀬戸を捉える機会を創出した。

（2） 瀬戸焼×日本酒体験×瀬戸グルメ×交流

瀬戸焼のうつわを使った日本酒の飲み比べ体験や、瀬戸ならではのグルメを味わっていただいた。
うつわの素材や釉薬の違いによって、日本酒の口当たりや味わいの感じ方が変化することを実際に体感し、瀬戸焼を「見る」だけではなく、「使う」「味わう」という五感を通じて「化学変化」を感じていただく機会となった。

4. 実施結果・効果

（1） 首都圏における新たな接点の創出

定員 50 名を超す参加があり、首都圏において瀬戸市を知り、関心を持つ人との新たな接点を創出することができた。これまで知らなかった瀬戸の魅力や新たな関心が生まれる「化学変化」のきっかけを創出した。

（2）「外から見る瀬戸」による魅力の再発見
瀬戸市出身者が東京で活躍する視点や、人類学的な視点を通じて、瀬戸にある歴史・文化・ものづくり等の価値を、従来とは異なる角度から伝えることができた。

（3） 体験を通じた瀬戸焼の魅力発信
日本酒と瀬戸焼を組み合わせた体験により、瀬戸焼の魅力を五感で感じてもらう機会を創出した。

（4） 次の「関わり」につながるきっかけを創出
東京でのイベントを入口として、参加者の関心を実際の瀬戸市への来訪や地域との交流につなげるための次のステップを設定。秋から冬にかけて、参加者等を対象とした瀬戸市内でのフィールドワーク「LOCAL RESEARCH LAB 瀬戸」を実施する予定。

5.今後の予定
11 月 7 日(土) キックオフ・フィールドワーク①@瀬戸市内
11 月下旬 オンラインレクチャー
12 月 19(土)、20 日(日) フィールドワーク②＆共創ワークショップ@瀬戸市内
1月 29 日(金) 成果発表会@StationAI


LOCAL
RESEARCH
LAB


LOCAL
RESEARCH
LAB
POTLUCK
YAESU











